

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 37 週 2026 年 9 月 7 日 ~ 9 月 13 日

今週のコメント

南丹保健所管内では、
インフルエンザが流行期入りしています。

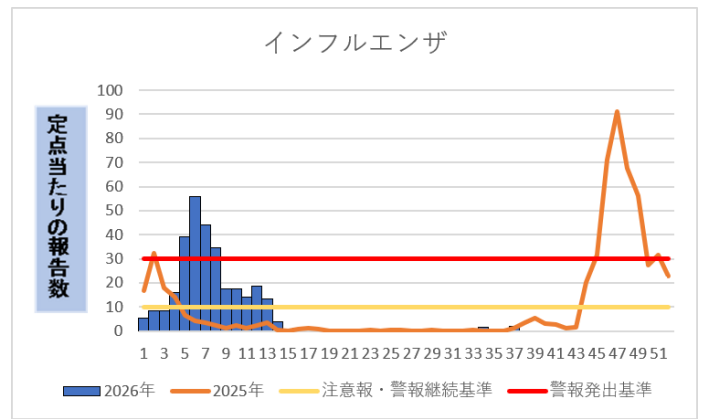
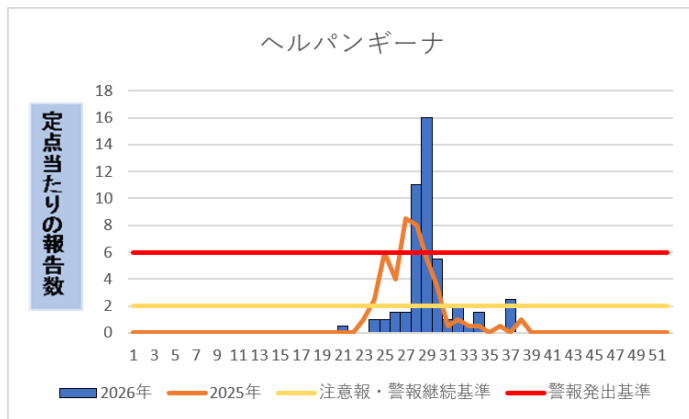
2026 年第 37 週の報告です。

○ヘルパンギーナの定点あたり報告数は、南丹 2.5(前週 0)、京都府 0.89(前週 0.43)となっています。

○インフルエンザの定点あたりの報告数は、南丹 2(前週 1)、京都府 4.36(前週 3.59)となっています。

○新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数は、南丹 1.5(前週 1.25)、京都府 2.81(前週 2.39)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。

2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

9/24~9/30 は「結核・呼吸器感染症予防週間」です。

「結核・呼吸器感染症予防週間」では、結核・呼吸器感染症に関する正しい知識の普及啓発を推進しています。

呼吸器感染症には、新型コロナウイルス感染症や季節性インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎などがあります。

結核も呼吸器感染症のひとつです。結核の症状は、長引く咳、たん、微熱等風邪のような症状で、初めは目立たないことが多く、特に高齢者は気づかないうちに進行することがあります。結核を発症しても、早期に発見できれば重症化を防げるだけでなく、家族や友人等への感染拡大を減らすことができます。咳やたんなどの症状が2週間以上続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

呼吸器感染症を予防するためには、手洗い、手指消毒、マスクの着用を含む咳エチケット、換気が基本です。また、食事・睡眠を十分にとり、適度な運動により免疫力を高め、感染症に負けない身体をつくりましょう。

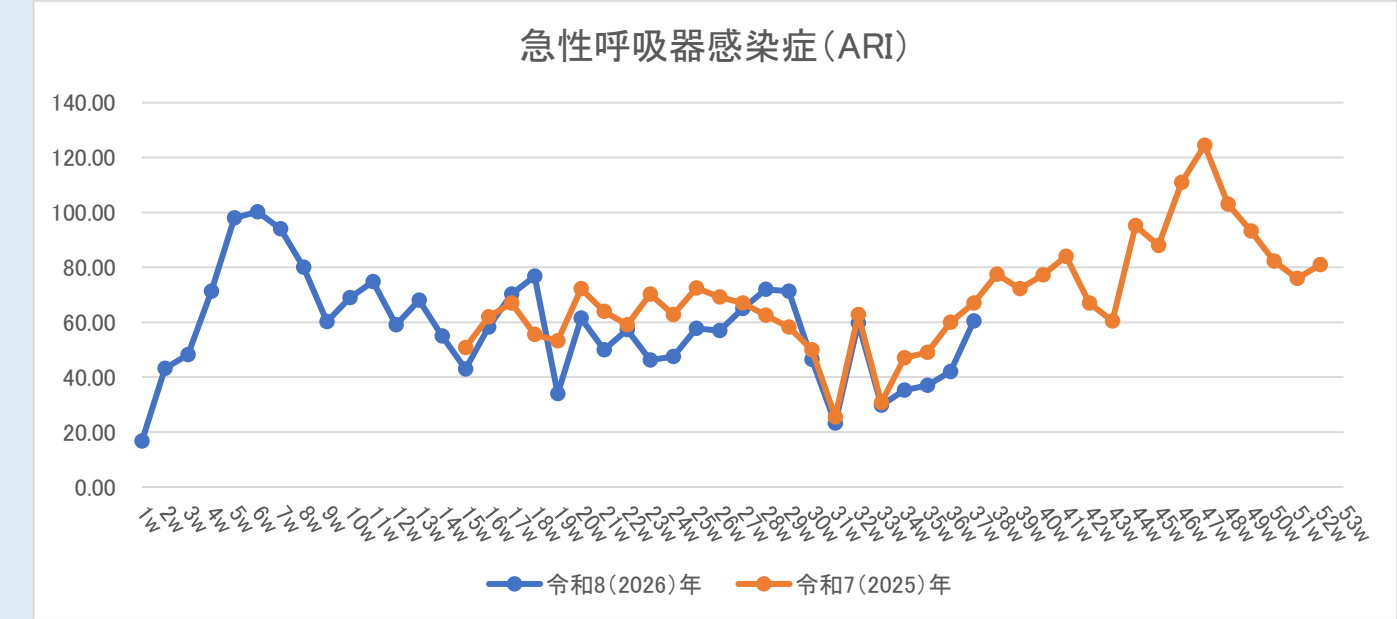
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R8.37w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	2.00	↗	1.00
新型コロナウイルス感染症				1.50	↗	1.25
RSウイルス感染症				0.50	↗	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.00	→	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		0.00	↘	1.00
感染性胃腸炎	20	12		1.00	↗	0.50
水痘	2	1	1	0.50	→	0.50
手足口病	5	2		1.00	→	1.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.00	→	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		2.50	↗	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第 37 週報告数は 242 件(定点当たりの報告数 60.50)でした。 [京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期:(原則)毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)